

□4月13日説教(隅野徹牧師)短縮版「この人は神の子」(マタイ27:45～56)

54節に百人隊長や見張り役といったローマ兵がこの出来事を通して、十字架の上で死んだイエスは神の子だったと知ったことが記されています。十字架のイエスの姿を間近で見ている多くの人が、イエスは神の子であると知った。それは自然なことと思われるかもしれませんが、そうではないのです。イエスが十字架の上で言われたのは、父なる神に対して「どうしてお見捨てになるのですか」という言葉でした。イエス・キリストのこの時の苦しみは、父なる神に見捨てられることだったのです。十字架上でのイエスのお姿を見る時に、御子が私たちの罪の身代わりとして死んで葬られ、その死によって私は救われたことが心に迫りをもたらします。神に見捨てられたことを大声で呪って、十字架で処刑された人はたくさんいたといわれます。イエスは外見上、そういう処刑された人と変わらなかったという見方もできますが、十字架の下にいた人たちの多くは、神に叫びながら死んだ主イエスを神の子だと認めたのです。これは神がなされた業として、十字架の死を見ることが出来たからだ、私は信じています。十字架の苦しみが何のためであり、何がもたらされたのかを、一人でも多くの方が聖霊によって悟ることができるように願います。十字架で死なれたイエスが、その苦しみによって自分をどのようにしてくださったのかを、周りの人に証してまいりましょう。(終)